增補考古畫譜

卷二

增補考古畫譜卷二

黒川春村原稿
古川躬行纂輯
黒川真頼増補

三卷

宇部

宇佐八幡宮繪詞

補 書畫筆者姓名不傳

補 本朝畫圖品目云。宇佐八幡繪詞三卷。奥書寶治年中

補 八幡宇佐宮御託宣集卷尾云。和氣清麻呂爲勅使參宇佐宮。事被書繪詞。私曰此繪者。後白河院御宇被納蓮華王院寶藏。相公顯雅卿爲辯官之時。依奉寶藏事之次被寫置此詞矣。寶治年中云云

補 頁類曰。宇佐八幡宮繪詞ハ。即宇佐八幡宮緣起ゐて。此の外ま異本ありぱ。部八幡宮緣起の條見合もべ〜

補 春村曰、予ゞ見〳〵本二巻あり、缺本歟、詞も缺たり

宇佐行幸圖　一巻

補 本朝畫圖品目云、宇佐行幸（畫圖品類も亦ゝ同ゞ）

同祭儀圖

畫圖品類云、宇佐祭儀圖一巻

雲圖抄　二巻

右衛門權佐藤原重隆撰（有裡書）

奥書云、此書者故都護納言為藏人頭時、故右金吾被抄出云云、件草傳在此家、而去年依不意之事、文籍紛失之間、已為其中、雖為寸幹不肖之身、猶有愚忠奉公之思、彼正本金吾御自書、傳在故前納言（朝隆）之許、仍所借請侍中左（朝方）司郎也、寫圖書銘于時永暦寂初之牽、無射上旬之候也、近代識者之家、以此為明鏡云云、為規摸而已、未葉左監門貞外將軍長秋内給事藤原為親（押書）嘉應二年仲春之頃、以右中丞御本寫之畢、子細被書載、仍所寫留也、工部尚書藤原親雅（押）

羣書類從本跋記云、右雲圖抄者、鳥羽院御宇、按察中納言顯隆為藏人頭時、所命其弟右衛門權佐重隆抄出也、後散逸、獨藏其姪權大納言朝方家、右中辨為親者、朝方從父兄弟也、因請寫一本於其家、今刻者蓋為親真本云

春村曰、重隆ハ元永中卒と尊卑分脉ゆ見えたり、鳥羽の御宇盛ゆ、ことゝ云るし、顯隆卿ハ一代要記ゆ、永久三年八月十三日補藏人頭

と見延。公卿補任ニ元永三年正月六日叙二従三位元頭蔵人とあるに。雲圖抄ハ永久四五年の頃出来けん事必定也。抑此重隆ハ装束司をも勤仕せらるゝ成るゝ。其所為ハ此雲圖抄のごゝらび。装束抄をも作るゝ仁也。さるハ吉部秘訓抄仁安四三十三ニ寛治家記。依二弁官着二布袴一之由被注之云云加之。重隆装束抄。殿上佐雖須着二衣冠一寛治依兼二弁官着二布袴一之由注之。とゝ延たり。秘訓ハ民部卿經房卿の吉記の抄出也。經房ハ為房卿の曾孫ゝ也。重隆ハ大伯父ゝ。寛治家記とあるハ。則為房卿の記ゝ。因云先輩雅亮抄を。装束書の祖とおゝ江て。夫ゝより前ニ此重隆装束抄ある事を。いまゝ世間ニ知る人ゝ。

さるを後世傳本ゝ。惜むべ〳〵

躬行曰。本朝書籍目録雑部雲圖抄二巻。大納言朝隆撰と記し。群書一覧ゝ。朝隆卿とせるハ。ともニ誤ゝり

太秦太子龕扉繪

倭錦云。太秦太子龕扉繪。蘓我馬子妹子像。公望華寺社寶物展閲目録廣隆寺条下云。聖德太子扉繪。寛文年中。自性院先住如全。再加二修復一。近来寫手作意を加ふるる也。証據ニ乏ゝ〳〵

躬行曰。蘓我馬子。妹子。博士學架。惠慈等四人の像ゝり

補真類曰。太秦太子龕の扉の繪ハ。蘓我妹子馬子二人の像ゝり。いノ部ニも掲げたり

躬行曰源信世ゝ惠心僧都と稱ス此書ゝ源心とあるハ誤あり

補真賴曰太秦牛祭繪ハ摩訖羅神祭繪ともいへり　まゝの部見合セベし

太秦牛祭繪　一卷

古畫類聚目錄云麻吒羅神祭圖住吉法眼筆

奥書云右九月十二日太秦廣隆寺牛祭々文也惠心院源心僧都應永九年九月十二日夕書之

補本朝畫圖品目云應永九年九月十二日惠心院源心僧都作

補古畫目錄云太秦廣隆寺牛祭圖一卷惠心院源心僧都作ト云寛政丁巳四月二日觀

躬行曰擁書漫筆云この年號さらゝ源信僧都の時代ゝあたねど　そハ僧都の作らゝ　文を用ゐて年毎ゝ年月のミを書改めつるなり　といへり此說然るべし　但近年岸本由豆流摹刻の本あり

宇治拾遺物語

倭錦云住吉如慶宇治拾遺

産屋繪　一卷

補本朝畫圖品目云産屋繪一卷

躬行曰柳庵隨筆ゝ産屋畫病雙紙の殘缺ゝやゝ無詞とみ延ゝど　按ゝ病草子ハ一病一段ゝ〻して連續せふゝのなく且平産を異疾とゝべからねバ信充の說うけがゝうるべし

浦島雙紙　一卷

本朝畫圖品目云浦島雙紙書畫筆者不詳畫圖品目類本朝也又同ト

補真賴曰浦島雙紙ハ御伽草紙のうちゝもあ

補 同　一卷

補 所藏不詳

補 真賴曰。摹本淺草文庫ゟあり。卷尾云。右浦島子畫卷一軸古摹本。白川少將より。備用再摹之。文政二年己卯正月下旬花押と見延たり。卷端ゟ龜を釣りゝる所。卷尾ゟ浦島の社の祭の圖等あり。但詞書ゟし〳〵

同　一卷

繪飛鳥井入道榮雅女一位局。詞後柏原院勾當內侍

函裏書。有高野山無量壽院得仁押之名。小卷也。住吉廣尚鑑定。故西村宗先藏

同殘缺　一卷

後土御門院勾當內侍。書畫一筆

躬行曰。長五寸餘の小卷。古筆了伴鑑定。墨坂堀家所藏。但下卷逸ス

梅津長者物語　二卷

補 本朝畫圖品目云。梅津長者物語。畫者姓名不傳

畫圖品類云。四卷。畫工不傳

知雄曰。所藏摹本奥書。住吉內記廣澄筆。とあり

躬行按ゟ。此物語二卷全備のゝのあり。畫樣古からび。具慶筆ゟらん

歌の意の繪　一卷

所藏不詳。畫工姓名不詳。

補 真賴曰。摹本淺草文庫ゟあり。伊勢物語源氏物語等の歌の意をかけゟゝのあり。歌ゝゝへ

歌の意の繪
所藏未詳摹本
在淺草文庫

てゐる

補同

補前大納言公任卿集云。花山院のかゝせ給へる紙畫は。歌つけて給りたりける。人々さふべきやうにつけむとゝゝあるのりけるは。人の鶴のひてふミひろげてゐるとる所云云。藤原長能集云。花山院の御てづからかゝ繪かゝせ給て。人々は歌つけさせ給ひしは。秋の前栽さきみたきたるをみぢあゝしろき所は云云

補同

補榮花物語巻六云。ひろたのゞ歌繪のゐたる草子は。行成の和歌うきたるあど。いとおうをろしう御らんぜらる云云

補同

補源平盛衰記巻二清盛息女の條云。異本ニ云ク。八ハ大納言有房卿ノ北方也。繪書キ花結ビ諸道ニ達レ給ヘリ。心ニ哀ミ深メ人ニ情ヲ重クセリ。女房ナレドモ聯句作文モ並ナク。手跡サヘ嚴メ。畫圖ノ障子ニ百詠ノ心ヲ繪ニカヽセ給テ。ヤガテ一筆ニ色紙形ノ銘ヲモ書給タリケレバ。院モ希代ノ女房也トゾオホセケル

補同

補畫工便覽巻三云。繪式部。平太夫從五位下繁兼之女。戲好翫丹青圖和歌之心故于世稱名

補歌合繪

補榮花物語巻卅六根あ云。かくて右大臣どのゝ

姫君内まゐらせ給ぬ。京極殿をきバいとせバし。琵琶をひらせ給ひ。繪をとゝとめでたくかゝせ給ふ。をとゝ繪をと繪師をづらしうかゝせ給ひ。ゆゑゝゝをうしうをうしまひ。御うたちをいとをうしげをり。あいぎやうつきふくらくはきゝゝやうをぞおもしましけゐ。まことや内は歌合せをせ給ひき。まゝ女御殿も参らせ給たゞうしゝ時の事をり。十月つごをうとありしうどのびて霜月の九日をゐ。殿上人左右はわうたせ給ふ。文臺ハうねの洲濱は。うねの五葉は。かゑのつた色々はいろどりたるゐゝうるいとをうし。をろをゝの兵衛佐かきたゐ。右ハうねの生きたこゐ。硯のをはとおゐゝたは。をうしゝどををいきた

ゐ。歌のおゝろをへを題はきたうひつゝゝ繪ゐ書たり。てハあをいどのゝいをたのめのと云々

補同

補同書巻卅六根あ云。右はは櫻人といふことを。おろうねの洲濱はゝて。歌うくをのをはうゝ十帖おろうねこゞ絲ふせんをうゞうゞんをつくゝて二づゝ。銀おゞねの糸ををんはむをびて。玉ををんはをゐたり。歌かくべきをうゝどをはこの題の心をへを。男繪女繪とのきたゐはうぬゆきぞ歌ハうきたゐ。歌をむねとゝる。ことはゐどわろををのはかゝをきべき。繪かきいをゝ知をのは書をべきゐうと。左の人々をどきけり。數さ

しハ。鶴を松はなませゝり。左りの歌ハ巻之の二つまて。こゝ祢のへう〳〵玉をつらぬきて。ひるまあたり。繪もこゝ也題はあたゞひてゝきゝり。歌ハ經任の中納言權大夫の母北方のき給へる。九十よの人のさゝりぬるゝたゆあきゝるゝ。露も墨ゞゝせぞかきかたゆ給へる。あさましうめでたし

補 歌合の題目の意の繪

補 祐子内親王家歌合 永承五 六五 云。女房所獻哥置筥上各書彩牋。或以題目趣施畫圖。或以金銀泥成文彩。風流之美。不可覩縷。男以白色紙書之 兼房朝臣施下繪

補 うたへ繪

補 古今著聞集巻十一云。繪師大輔法眼賢慶ゞ弟子ゞ。ゞゞゞゞしゝゝやいふ法師有けり。賢慶逝去のゝち。後家と不便に成て。相論の事有けり。六波羅ゞ訴へけゝゞゞ。事ゆゝで程遠けゝバ。此法師繪もさゝしく書けるゝのゝて。くだんの後家ゞありさまふゝまひをむゞめようかきあゝたしてゝゝり。ゝ男して會合したる所ゞゞどさましゝゝゝ書て。えゝいたゝいろゞどゝて。詞付て。六波羅へ持て行て。奉行のゝの共ゝ見せけゝバ。訴訟をこゝゝゝ執申さんの心ハゝゝうけゝゞゞ。繪其興あるようりて。とゝくゝてきまよふ程ゝ。兩國司まで也見て。訴訟のむねくゝしくこゝろえゞどきゝけゝ。つひゝゝちまけゝり。件の法師攝津國宇出庄

補 牛若物語繪

補 圖畫一覽上卷云。詞存畫逸もるもの。牛若物語云云

補 柳菴隨筆云。詞のつゞいうて。繪の散逸もるもの。のあり。牛若物語云云

補 歌合人物繪

補 異本土佐系圖云。刑部大輔光長頭注云。畫歌合之人物。三井八郎右衛門藏也

補 土佐系圖光長頭注云。歌合人物ハ。三十六歌仙畫也。今不全備

補 真賴曰。此の畫恐らくハ三十六歌仙繪ある べし。三十六歌仙繪ハ。さの部ばいぞせり。見あ もきべし

馬繪

三代實錄云。貞觀十年十二月云云。左大臣從二位源朝臣信者。嵯峨太上天皇之子。源氏第一郎也云云。大臣性強雅。風尚不恒。好讀書傳。兼嘉草隷。又工圖畫。丹青妙。馬形寫真

同

本朝畫史云。後京極攝政諱良經。九條兼實公子也。奉仕土御門院。攝政歳卅八薨云云。唫詠之暇。好畫馬形。丹青諸家皆服其妙。時人稱曰普賢寺殿之牛。後京極殿之馬。稱爲一雙名手。事見于駿牛繪詞

同

同書云。鳥羽僧正覺猷。源隆國子。西宮左大臣高明公孫也。爲天台座主法務。及三井長吏大僧正。住醍

酬。又居鳥羽。故号鳥羽僧正。専為倭畫。善人物。自為一家。寫意不求形似云云。又畫馬形。極其妙。僧正曾見天開十二匹馬。妙為之。此圖如今流布于世

躬行曰。鳥羽僧正ハ。宇治大納言隆國卿九男。保延六年九月十五日寂。年八十八。隆國卿ハ。大納言俊賢卿の子。高明公の孫也

同

名畫拾彙云。後陽成帝。嘗御畫六馬於一板上。掲清水觀音堂。筋骨駿逸。大有生意。衆皆伏其神妙

同

同書云。後水尾院御畫。殊清爽有活動。僧宗彭詩集云。後水尾上皇畫馬圖。水墨淋漓深不乾。宜和盛事照心肝。天機已到試天步。于闐筆騮跳筆端

補 同

補 古今著聞集卷十一云。仁和寺の御室といふハ。寛平法皇の御在所也。その御所ハ金岡筆を始るひて畫きけるの中ハ。殊ハ勝れたる馬形なむ侍ける。其うま夜々ハなれて近邊の田をくひあらす。何るものゝをふと云ふるものなくて過侍けるなど。ハ。件の馬のあしハ土つきてぬれゝとある事だゞらゝなおよびけるとき。人々あやしみて。このうまの去ヒざるやとて。壁ハのきたる大まのめをかうくとりてけそ。そ也より目なくなりて。田をくふ事ゝゞまりなけそ

補 同

補 中右記云。天永三年十月十九日。可渡御新造大

炊殿也。予依為上卿辰時許着束帯参仕（中略）見廻所々之所朝干飯壺布障子皆悉畫馬形里亭多相具打毬也仍俄可畫具打毬圖之由下知繪師信貞則令畫圖了令立晷云云

補　同

補　倭錦云小川僧正馬之圖

補　翰林五鳳集卷卅八（氣形部）云小河僧正五歳馬圖

（天隱）小河大僧正雖為浮屠氏善相馬亦能畫馬韓幹江都王之匹也僧正持誦之餘暇圖一馬謂人曰馬之五歳而筋骨步驟背斯者天下駿材也小笠原成貞得斯圖以藏于家遂付令嗣成孝々々竊之於令弟用公侍者々々々以為其父兄傳十襲以秘之就余需措辭於其上也云云

牛繪

本朝畫史云普賢寺攝政諱基通近衛關白基實公之子也奉仕於五朝而攝政於三朝歳七十四薨遊藝惟多殊工書畫曾畫牛得其精妙

補　牛馬繪

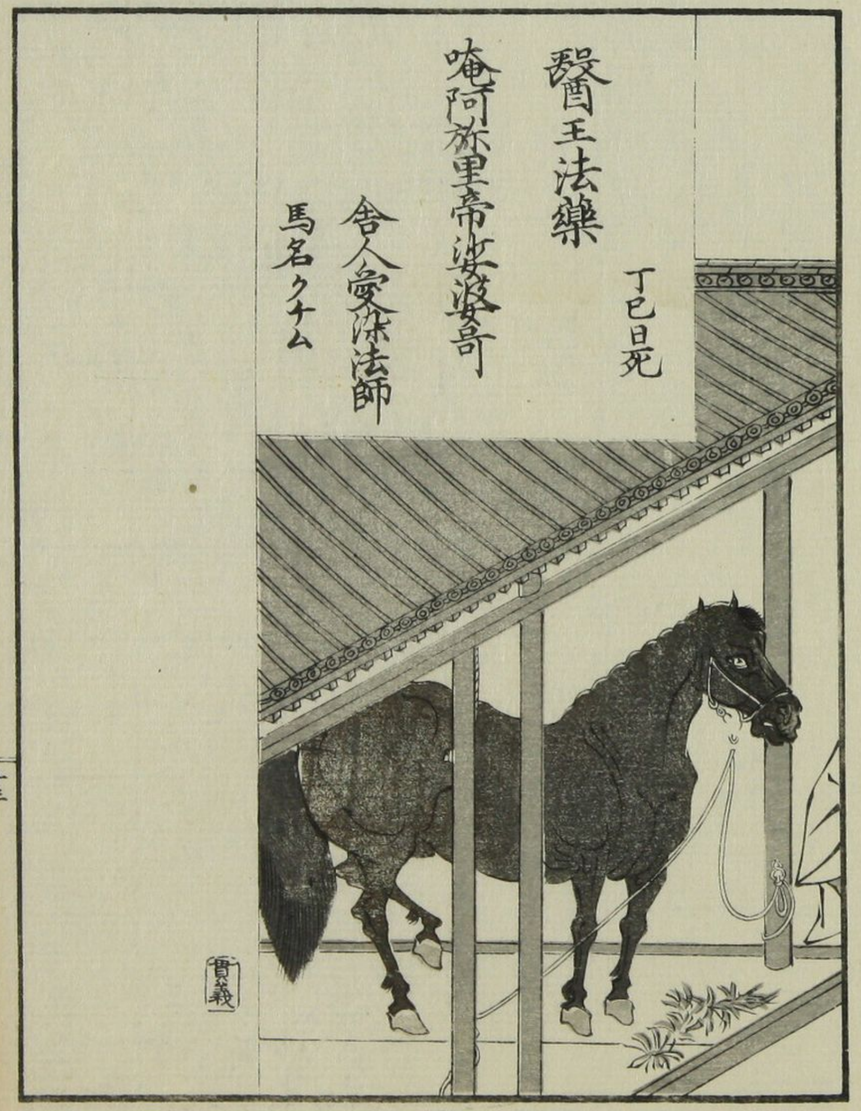
補　吉槐記云乾元二年正月廿九日（日吉御幸条）参御八王子御歩行還御之時被用御手輿人々候御前被聞食供御任禪法眼被召御前畫牛馬之似繪堪能事也今夜御通夜于卜禪師云云予不参

補　馬醫繪　一卷

補　本朝畫圖品目云馬醫繪一卷

補　好古小録上卷云馬醫繪一卷往年古本ヲ見ル無用ノ長物トイヘドモ古色アルモノナリ住吉

馬醫繪　所藏未詳　摹本　在淺草文庫



家傳フル所ハ貞享五年八月ノ摹本ナリ。後附藥草圖一二。據ルベキコトアリ

補 知雄曰。予所見の摹本船裏以下佛座ニ至リテ。十七種ノ藥草圖ありて。圓融院の天祿元年庚午七月八日とあり。又次ゝ真片假字の跋文ありて。七郎兵衛尉忠恭相傳之。寸法四寸丁卯正月廿六日甲寅。西阿花押アリ

補 真賴曰。此の繪筆者の名詳ならず。光信歟

補 又曰。馬醫の繪一卷。畫上ゝ色紙形あり。卷尾ゝ十七種の藥草圖あるもの。摹本淺草文庫ゝあらう。原本ハ殊勝のものあるべし

補 馬醫繪詞

補 佐錦云。土佐隆兼。馬醫之圖詞

補 真賴曰。上ゝ掲げゝる馬醫繪。と同物ゝや。考ふべし

既古圖屏風　一雙

所藏不詳。畫工不詳

補 真賴曰。摹本十二枚。淺草文庫ゝあり。殊勝のものあり

補 了仲曰。この繪慶應のころ。幕府より朝廷ゝ獻ぜ

補 海川圖

補 古畫目錄云。海川圖。紀伊國和歌○○○○藏。屏風

補 宇多天皇法躰御影

補 山城國高山寺藏。巨勢金岡所畫と云傳ふ

補 真頼曰。三鈷と數珠をもたまへる像あり
摹本淺草文庫にあり

補 牛若丸像

補 本朝畫圖品目云。鞍馬寺牛若丸像

補 真頼曰。摹本淺草文庫にあり。水干を着たる
座像にて。うしろに屏風を立たり

補 宇津宮朝綱法躰像

補 集古十種肖像部云。藤原朝綱法躰像。下野國地藏
院藏

補 宇津宮景綱法躰像

補 同書云。藤原景綱法躰像。地藏院藏

衣部

江島縁起　五巻

書畫筆者未詳。相摸國江島辯財天縁起。下坊所藏。碩覺漫筆。
云。岩本院藏

新編鎌倉志云。江島縁起五巻。詞書作者不知。繪ハ
土佐ナリ

補 古畫目録云。江島縁起。住吉家繪本

補 古畫類聚目録云。江島縁起繪

補 春村曰。詞書の筆勢ハ源光行あらん。とおも
ふるゝなのあり

貫雄曰。此縁起原本ハ既く失あとあけん。現存
せるものハ中古の摹本あらん。と住吉弘貫い
へり矧

躬行曰。丙寅四月江島よりのせる序よ。この縁起をまゐらせくて。下坊ゐをとめさせけるよ。答けらく。近年岩本院と事を爭ひて。問注所よ訴へまをゐをり。便宜よつきて。此縁起を奉行のゐとよるて出しらば。やゞてとゞめおのれぬ。さるゐどよ火出来て。かの奉行の館や焚ぬふちゐいち。縁起を灰燼とゐりぬといひおこせしいとあたらしうをしうりき。そもゝこ此縁起。鎌倉の末の頃ゐどよいできけんとおををるゝ口氣よて。源光行の筆あらんとおもふゝ文勢ゐり。と春村翁いへりき。彼島ハもとより江島明神のまゝまを呼ゐるをおゝろくしく。中ころより。辯財天靈場ゐるよゝよゐ

きゐしたり。そゝ東鑑巻十七 建仁元年六月一日寅刻。左金吾御參江島明神云云。又巻廿四 建保四年正月十五日。相摸國江島明神有託宣。大海忽變道路。仍參詣之人無船之煩。始自鎌倉國中緇素上下成群。誠以末代希有之神變也。三浦左衛門尉義村。爲御使向其靈地。令參。嚴重之由申之。とゐ延たり。是よりも前。同書巻二 養和二年四月五日。武衛令出腰越趣江島給云云。是高雄文覺上人。爲祈武衛御願。奉勸請大辯財天於此島。始行供養法之間。故以令監臨給。密議此事。爲調伏鎮守府將軍藤原秀衡也云云。とゐをが。辯財天い養和よ文覺ゞ祀をそめしゐり。さゐよゝいいまををゐ人をまをらるをば。明神ハひたを

らは。隱ろひたて給ひぬるこそあさましゝあさ
いづこをいつこるかゝる事のこゝおもくて

叡福寺繪詞　殘缺一卷詞佚

好古小錄云。畫法伴大納言繪詞ニ似タリ。山陵ヲ造ル圖アリ。古色可掬。叡福寺ノ繪ト云。是非ヲ知ラズ

躬行曰。叡福寺ハ。河内國石川郡太子村ニ在。世俗上ノ太子といふ。此畫卷を尋るに。既に本寺にはゝ。予曾て此古畫卷をとる。詞ハたやく佚せり

補 真賴曰。摹本淺草文庫にあり。詞書あり。山陵をつくるよりて。御葬送までの繪あり

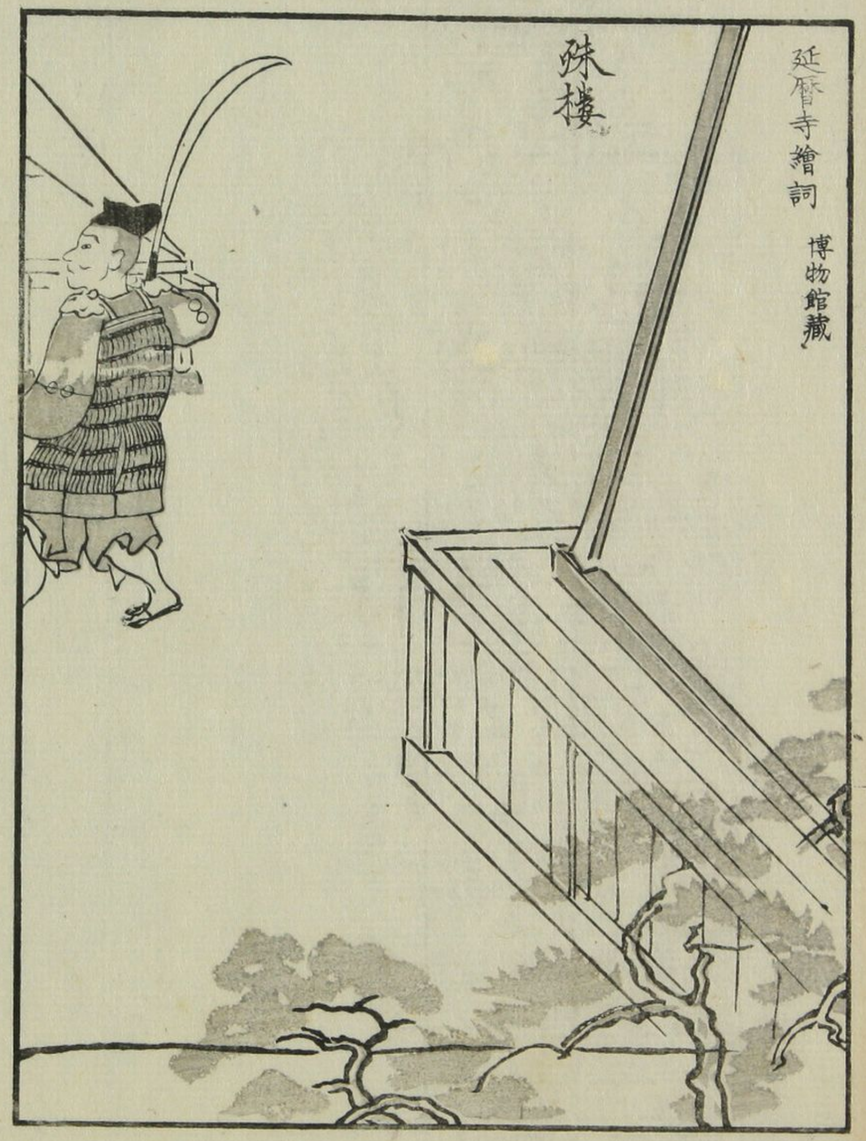
延暦寺繪詞　一卷一名天狗草紙

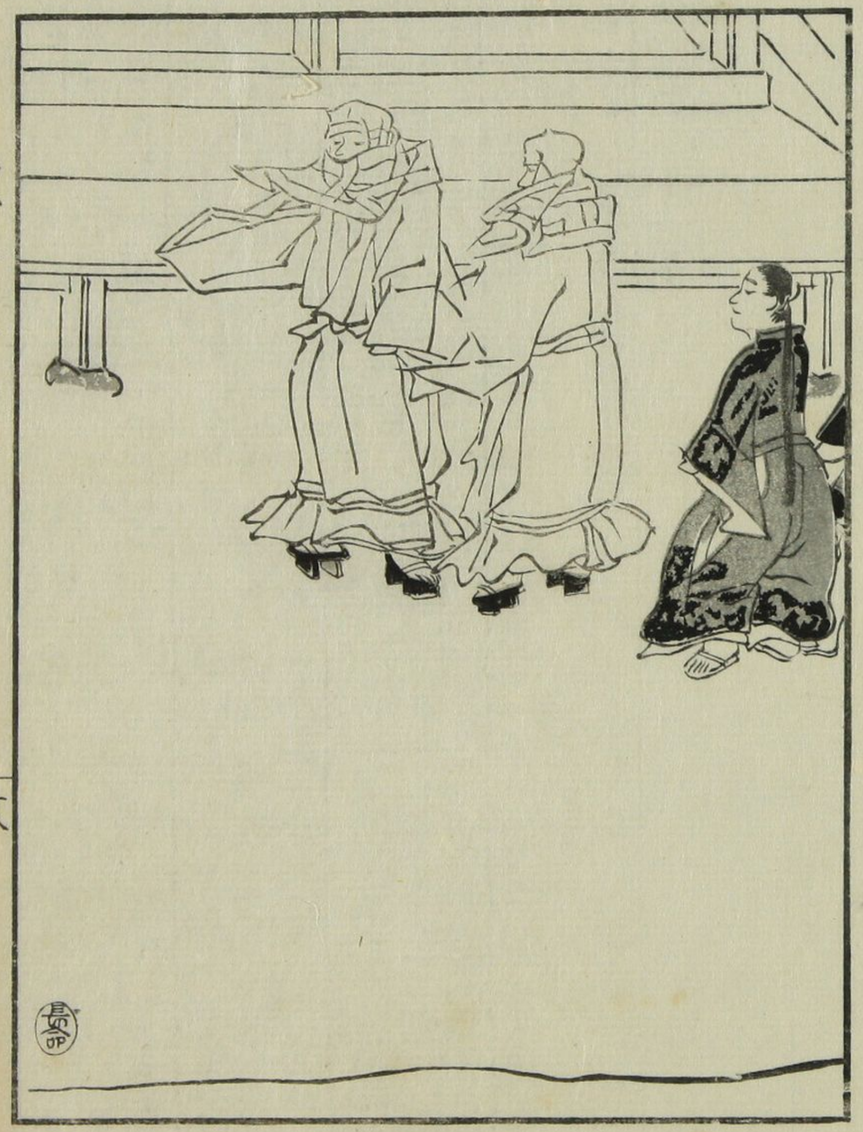
畫刑部大輔光信。詞筆者未詳

奥書云。此延暦寺緣起一軸者。土佐將監光信畫圖焉。妙非庸流之所及也。遂援筆解他日之惑云。寛文戊申年陽月下澣。狩野法印探幽

躬行曰。此卷光信ともるをのゝ誤なて。倭錦は越前守行光。天狗雙紙五卷之中。叡山醍醐の一卷。詞青蓮院尊道親王ともるるの是なり。曾てきく。此卷及東寺の卷。明治十年秋。官物となりて。淺草文庫にあるといへり

補 真賴曰。塵囊抄卷八天狗名目事の条　漢書ノ中ニハ。天狗ハ流星也。則太白星ト云ヘリ。但諸道ノ長者。諸宗ノ行者。依慢心成天狗ト云ハ。其名同ジケレ共種類各別ナル歟。其モ定テ底ハ通ヒ侍


殊樓
延暦寺繪詞
博物館藏



ラン・砂石集ニ不見及・ト申サルヽ天狗ハ此事ニヤ・其モ八坂ノ寂仙上人遍融七天狗ノ繪ト云事書レタレハ・定テ由緒侍覧云云・と見延ゑ

ふ七天狗繪ハ・かゝらそこきまて・此の延暦寺繪詞も七天狗の殘缺ゑる歟〳〵

補 荏柄天神縁起

補 古畫目錄云・荏柄天神縁起・行長筆・住吉家藏・今者荏柄天神社ニ無之

補 畫圖品類云・筆者世尊寺行能卿

補 畫圖一覧上巻云・荏柄天神縁起三巻・上巻菅公御傳・中巻ハ公の崇ゑりとて・天災あり〳〵事・贈官の事・下巻ハ北野社建立の時より・霊驗奇瑞の事を記す・本文の中ゑ・建長の今といふ事見延たり・

奥書ゑ・右天神之御縁起・鎌倉荏柄天神社有之寫矣・筆者世尊寺行能云云・住吉内藏允

補 繪巻物奥書ニ云・于時寶暦元應屠緒之玄律大呂朔之朝而已・右近将監藤原行長

補 新編鎌倉志巻二（荏柄天神条下）云・天神縁起三巻・畫ハ土佐筆・詞書ハ藤原行能ナリ・當社縁起ニテハナシ・菅相丞一代ノ事跡ヲカケリ

補 真頼曰・荏柄天神縁起・摹本三巻・淺草文庫ゑあり・巻尾云・此縁起荏柄天神寶物也・とあり

補 又曰・畫巻中・延喜帝の地獄ゑ落たまふ所あゑ

補 葉衣觀世音像

補 永正三年記云・舊冬十一月十九日・三條御所御

鎮宅尊勝院光什僧正參勤云云葉衣觀音法御修法也云云本尊新圖其樣悉皆青色像也御供料三千足云云

補 叡山西塔常行三昧堂壁畫

補 日本高僧傳要文鈔卷一云靜寛僧正傳云年十六於東大寺受具足戒云云又云延長五年二月僧正於西塔常行三昧堂四面壁柱令圖繪極樂淨土矣

補 延年舞繪

補 倭錦云巨勢弘高延年舞衝立北野神寶

補 真賴曰延年舞の繪の事委しくはきの部北野の内陣衝立障子畫の條あり見合せべし

補 易卦繪

補 台記云康治三年正月廿八日先日仰畫佛師教選令書易卦成佐語云教選夢着禮服（如御即位供奉官）之五六十人許立廻加檢察令書之其中有載三中冠之人如主人件人對居教選殊加檢察者今日召教選問之如成佐之言

江戸莊繪圖

本朝畫圖品目云享祿年間之圖也

補 真賴曰此の圖ハ畫を賞せべきものあらぞ

補 役行者像

倭錦云粟田口隆光役行者

補 同 一幀

補 所藏不詳畫工不詳絹本摹本淺草文庫あり

補 真賴曰。役行者窟前にあり。前鬼後鬼前に侍せり。筆力あるものなり

補 真賴曰。鬼間の繪は。清涼殿鬼間白澤王斬鬼壁画なり。せノ部見合せべし

於部

陰陽寮日月圖　一卷

好古小錄云。寛正二年九月。權大僧都尭忠。傳寫スル所也。世人紅夷寫シ傳ルヲ。日月ノ圖ノ始トス。古昔スデニ此圖アリ

鬼間繪

建暦御記云。鬼間南壁。白澤王切鬼繪禁掖秘抄云。鬼ノ間ノ南壁ニ。白澤王ノ鬼ヲキリタルヲ書タリ。鬼ノ間ハトリ牛障子ナリ

古今著聞集巻十一云。まゝ鬼間のかべに白澤王を書きたる事は。むかしこの間におのの住けるを。鎮めらきたりるゆゑなり。かゝきたることゝいまゝしく傳へたきどもゝしらぬる説を去らぜ

真俗交談記云。鬼間繪事。人不見之。先年相尋繪所之處。固辭申終不顯其繪樣。如何為長曰。凡此條自古至今雖聞鬼間名。未見其消息云云。秘藏故歟。然存人尤稀也。不可言上之由辭申。賦目於兩卿。親經資實。同辭之。予自答曰。鬼王三面三目有一角。其色赤色也。間民方畫之。如逃去勢。又勇士一人提劍如追鬼王顧勇士走形也。此時為長曰。朱雀門鬼者。鬼間王所變也云云。彼鬼青色一面也。長谷雄記有之云云。青色異說也。後可決之

補 應神天皇繪緣起　三卷

補 京都將軍家譜上卷云。永享五年四月廿一日。將軍家親筆應神天皇繪緣起詞三卷。神功皇后二卷。以被寄進於河内國譽田宮

補 真賴曰。將軍八足利義教公なり

躬行曰。譽田社は京都將軍の奉獻として。緣起三卷。三韓征伐圖二卷現存せり

補 真賴曰。此の繪卷は。譽田天皇緣起と稱するものとは別なるなり。本朝畫圖品目云。譽田天皇緣起。一名三韓征伐二卷と見延たり。此の繪卷は三卷とありて。卷數合はず

大原繪　六卷

高野日記云。隆信朝臣の大たちの圖六卷。彩色筆のたゞきどころあり。處々の詞ゞき同筆あり。おろ〳〵まる〳〵。文字かけあふまゝきあめり。法性（忠通公）寺どの〻御筆なまゞしくふむなを侍りし。かゝる筆づかひ。いまよふを延ぞ。世の色ざとたるうあらぬわゞな。いとくちをしくありゆくをのまたゞゝ。寂光院の北坊なて見たべる

躬行案ず。大日本史云。前關白太政大臣忠通。長

寛二年二月薨。世稱法性寺關白。性謹厚。喜慍不形于色。工詩歌。尤能書。晚年書法精妙。自成一家。稱法性寺樣。と列傳まゝ。隆信朝臣ハ。正四位下右京大夫。皇后宮少進爲隆男。元久二年二月卒也

落久保物語繪　八卷

古畫類聚目錄。載之

畫圖品類云。落久保物語八卷。畫者姓名不知　小笠原家藏本朝畫圖品目ハ亦同ト

補　御節會繪卷　一卷

補　淺草文庫藏。畫工不知。詞書北小路祥光卿

補　真賴曰。この繪近世の節會のさまを畫うきたる。但繪ハ四條風ゝ見ゆ

補　真賴曰酒顛童子繪卷。追討圖。酒顛童子繪卷。皆大江山繪詞ト同類。その小て畫工の意も。いさゝかそのさまなりべくなる。そのあり。志ノ部を見合せ

補　了仲曰。香取本。大江山の詞書筆者。上卷ハ。兼好法師。下卷ハ。慶運法師なり

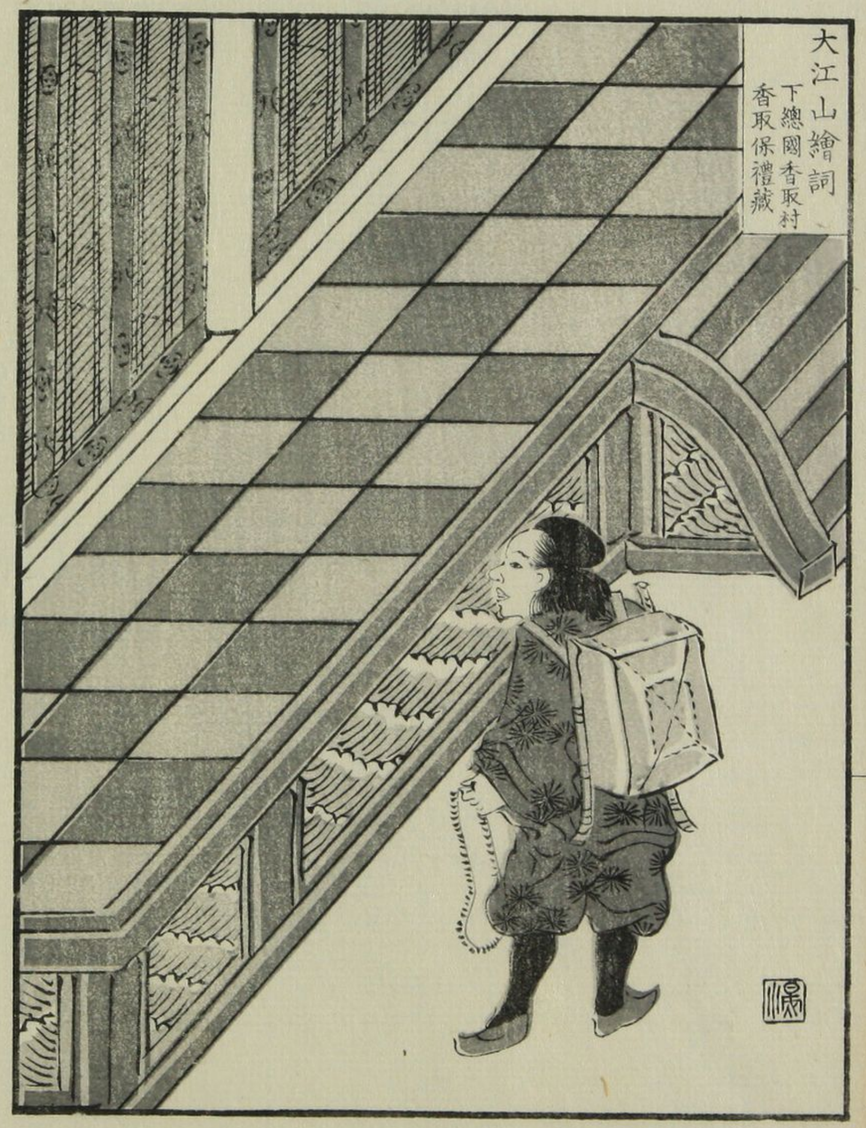
補　了悅曰。香取本。大江山の詞書筆者。上下の卷ともに一筆なり。兼好法師。慶運法印ともハゝ。ゝ二條家筋世卿の筆跡なり

大江山繪詞　二卷　一名酒顛童子雙紙

古物語類字抄云。下總國香取社。大宮司所藏の本ハ。詞書兼好法師。畫工ハ誰ならん尋ぬべし。標題大江山繪詞と有といへり

顯則曰。本社藏二卷。々標白茶地錦。軸紫檀。無表題。書畫筆者姓名不傳。詞盛衰記平家物語等の口氣なて。太平記よりもいふるし。元信筆といへるものハ。詞も近俗なて別本なり

補　真賴曰。香取本酒てん童子繪卷ハ。おとゞ雙紙本。又古法眼本と異なり。古法眼本ハ童子のそゝろを。伊吹山とも。香取本とおとゞ雙紙本とハ。大江山とゝ。香取本ハ畫やう蒙古襲來繪卷のごとし。恐らくハ長隆の筆ゝ。又曰この草



大江山繪詞
下總國香取村
香取保禮藏

大江山繪詞
池田輝知藏

大江山繪詞
淺野長勲藏

紙ハ予ガ見たる本三種ありて、そのなかに香取本いとふるし、つぎくハおとぎ雙紙なり、そのつぎハ古法眼の畫ゲけり、といふ本あり

同　三巻

本朝畫圖品目云、畫狩野元信詞上巻近衛植家公、中巻前大僧正公助、下巻青蓮院尊鎮親王、因州家藏西洞院時慶卿記慶長十四年六月十四日云、酒顛童子草子讀懸ル、同十五日酒呑童子ノ雙紙讀果ル

躬行曰、元信、永祿二年十月六日卒八十四、植家公、永祿九年七月十日薨六十四、尊鎮親王後柏原院皇子、公助僧正の受法、皆時代合へり

又曰、時慶卿記ニ記ス處、何ノの本ニ知ガ

さし、但元信の本ハ、一條帝の正暦頃の事とし て、近江國伊吹のおく、大江山の千丈ゲ嶽ホ、ら北童子のをめるよしをかけり

補 真賴曰、狩野元信の畫ゥける、大江山繪詞三巻摹本、淺草文庫ニあり

同　三巻

畫狩野守信、詞筆者未詳

補 真賴曰、摹本淺草文庫ニアリ、奥書云、繪狩野探幽藤原守信圖之とあり、此の繪巻元信本を以て本とせしものと見延たり、又曰、表紙ニ記したる文ニ云、金森出雲守殿所持、當時松平安藝守殿とあり、圖も元信本ニハいさゝ異あるところあり

補了悅曰狩野守信の畫りける大江山繪詞三卷ありて詞書筆者を志るさび案そるる竹中彈正少弼季有朝臣なるべし季有朝臣ハ四辻公理卿の二男なり

同　三卷

倭錦云土佐光起酒呑童子卷物

貫雄曰光起畫三卷住吉廣行依古圖補三卷合為六卷

補大江山繪　三卷

補古畫目錄云大江山繪三卷松浦忠右衛門藏

補真賴曰此の繪卷ハ大江山繪詞とハ別かり音無雙紙　一卷

畫者姓名不傳詞書青蓮院尊鎮親王

奥書云永祿十三年孟夏中澣之比染筆訖末弟　春秋十九歳　親王

補真賴曰音無雙紙一卷筆者詳ならび摹本淺草文庫まあり卷尾ま記して云く右卷の名所傳ふし志むらく詞を以て音ふしの雙紙とも とあり又云く伊藤修理大夫殿所持とあり案そらま此の繪光信の筆意あり

補大井川繪

補明月記要目云建永二年六月參和歌所召尊知令畫大井川繪

補大炊殿打球御障子

補中右記云天永三年十月十九日可渡御新造大炊殿也予依為上卿辰時許着束帶參仕中略見廻所

呼之處朝干飯壺布障子皆悉畫馬形里亭多相具打毬也仍俄可畫具打毬圖之由下知繪師信貞則令畫圖了令立替云云

補 真頼曰大炊殿ハ里内裏ゝ天永三年ハ鳥羽天皇の御時ゝ

補 大内指圖

補 後愚昧記云應安二年二月九日大内指圖不審事有之仍借請九條前關白經教公之處被送繪廣幅絹書之卷繪也八省院豊楽院等悉有之古物也芳志之至也十三日大内繪返遣九條了

補 翁三番 二幅

補 倭錦云土佐光吉翁三番二幅

大かほの車

古今著聞集卷十三云後中書王(具平親王)雑仕を最愛せさせたまひて土御門(師房公)右大臣ハまうけたまひ給ふあり あさゆふ是をあらはさ愛し給ふこと かぎりなくまけり月のあらゝきるよ件のばうしを具したまひて遍照寺へおはしましたりきるよこの雑仕ものゝとらさきを失ふけり中書王歎きかなしを給ふ事理りなきなり おもひあまりて日頃ありつるまゝなたがへぞ我御身とうせよ人とのの中ハ此児をおきてこゝまへる形を車のそのの裏ハ繪ハかきて御覧じきり はるゝなどよ寛治の中殿の御作文ハまるを給ひくそのくるまを陣ハ立らさけるなどよ物見おちゝ者るを牛飼たつとてあやまちてう

らをおそてるたてゝあり。あらためらるゝ事あくて。今まあほげわの車とて。のりたまへるゝ此ゆゑなむべる。とぞ申傳へる

補 鬼の繪

補 後撰集戀五云。一條ゝをとゝ。いとをかん戀しきといひまやりたりければ。あまのゝたをかたてやるとて。一條

戀しくいかげをゝまゝてをぐさめよわがうちとけ〻忍ぶゝゆゑあり

大鳥御琵琶

古今著聞集卷十一云。順德院の御位の時。おゝらしゝ知御びたの有々るを。いゝある名をゝはくべきとて。藏人孝時ま。風俗催馬樂の名并ゝ其歌の詞の中ま。さもあり。ぬべゝのらむ。注申をべきよゝし勅定有けゝ。即注進しけゝ。其中ま大鳥の入たり々るを。是ま。てこそあらめとて。其名ゝ知ぢまりま。けり。さて撥面の繪まゝ。ゝ。ゝむと志者る時。そも。そも此鳥のをゝゝゝいゝのある物ぞ。誰志ゝたると御たづね有々るま。申人あゝりをるま。源大納言通具卿繪樣候とて奉ゝりけゝ。ひよ鳥の色しゝる鳥の。目嘴ゝど恐しげ。ゝるゝ。ふとくみゝゝゝる姿ゝるを。書てまゝらせたりゝ。御らんゝて。こゝゝはゝゝゝみ。ゝたるぞと。ふるく本のゝゝ。又此定ゝるゝぞ注したる物のゝるゝ。と御たづねゝるゝ。大納言詳まうそむねゝし。只ゝもとゝふるくゝりうつしゝちて候。とぞゝう申さゝ

々う。さてハ其事正体なし。此人のおし事をる人
なこそとはさ有て。をちるらさしにあらはけり。さ
て孝道朝臣ハ御たづぬ有きさバ。風俗ようさひ
て候様ハ。大とりの羽ハ霜ふれりと候ハ。をしハ
鵲などなてや候らん。とぞ推をらさて候。ちらぐ
ハ口傳ま候をぞ。たゞ歌の詞ハて推し申計ハて
候と申々さバ。この事さもありとて。鵲をかゝさ
さりとぞ

躬行按ハ。おかとり。和名抄ハ鵲。野王案。鵲。漢語
抄云。古布。日本紀私記ハ久々比大鳥也。新撰字
鏡ニ久々比又古比ま。和名抄ニ鸛。於保止利。
類聚名義抄。鸛。オホトリなどみあ。神樂湊田ニ。
久々比也川乎里などもあるを。おかとりとて。

鵲をこのゝさ〜む。頗無念なこそ

補 大穴牟遲命像

補 古畫類聚目録云。大穴牟遲命像。山城國稲荷山
社人藏

補 應神天皇御影

補 集古十種肖像部云。應神天皇御影。河内國譽田八
幡宮藏

補 真頼曰。天皇衣冠の御影ハり。筆者不詳

補 太田持資法躰像

補 同書云。源持資法躰像。藏未詳

補 真頼曰。此の像袈裟をかけさり

補 大井尼像

補 甲府瑞雲山長禪寺什。大井尼公（按武田機山公母。号瑞雲院信

州岩村田城主大井次郎信達女也肖像賛云于茲有孝子新羅後裔信廉公自揣慈母之容顔需於賛不能辭卒掇一章以應其求云分明描出是酬恩彈力高聲喚茂言老拙點開半邊眼有無照破盡乾坤岩天文廿又二昭陽赤奮若遁月如意珠黄前永平安之叟玄穩賛

補 織田信忠像

補 集古十種肖像部云平信忠卿像山城國大德寺塔中大雲院藏

補 真賴曰束帯の像あり黒袍を着せり

補 同

補 同書云同像同藏

補 真賴曰束帯の像ふく亦黒袍を着せり但前圖よりハ年わかく見ゆ

補 同

補 京都大雲院藏

補 真賴曰集古十種より此の圖を掲げぞ束帯の像ゆて袍ハ窠文あり摹本淺草文庫よりあり

補 同法躰像

補 集古十種肖像部云平信忠卿法體像高野山三昧院藏

補 大友宗麟像

補 大德寺瑞峯院藏畫工不詳摹本淺草文庫よりあり

補 真賴曰袈裟を掛け右手より扇をさしてる坐像

增補考古畫譜卷二 終